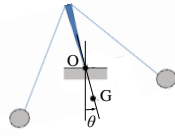


計算力学技術者 1 級問題集（振動分野）2023 年度版（第 7 版）正誤表

P.	項目	誤	正
vii	FEM(振動工学・音響工学)	電気・電子のための有限/境界要素法—波動問題への適用—	電気・電子のための有限/境界要素法—波動問題への応用
42	問 2-39 選択肢 (a)	左辺第一項 ①～④ $ml\ddot{\theta}$	左辺第一項 ①～④ $ml^2\ddot{\theta}$
64	問 3-29	問題掲載	問題削除
158	問 8-27 結合後の全系の運動方程式 左辺第 2 項	2 行 1 列成分 $-\Phi_k^{(2)T} \Delta K \Phi_k^{(1)} \mathbf{0}$	2 行 1 列成分 $-\Phi_k^{(2)T} \Delta K \Phi_k^{(1)}$ (0 を取る)
194	問 2-1 解説	支点と重心との距離は $a$ であるので、重力による復元モーメントの大きさは $2mga\theta$ である。	支点と重心との距離は $a$ であるので、 下図に示すように「やじろべえ」が角度 $\theta$ だけ傾いたときの重力による復元モーメントの大きさは $2mga\theta$ である。 
195	問 2-8 解説 (下から 3 行目)	準虚数	純虚数
203	問 3-21 下から 4, 3 行目	$\rho l(*)^2$ [*] $\rho l$ [*]	$\rho I(*)^2$ [*] $\rho I$ [*]
217	問 8-13 $\alpha_{rks}$ の分子	$\{\phi_s\}\{*\}\{\phi_r\}$	$\{\phi_s\}^T\{*\}\{\phi_r\}$

221	問 9-14 解説	<p>(補足)</p> <p>上 2 箇所のゴム製クッションの分担率は <math>5\% \times 2 = 10\%</math>、  下 2 箇所のゴム製クッションの分担率は <math>30\% \times 2 = 60\%</math>なので、それ以外の何らかの部材が 30%を分担している。例えば解説の次式</p> $\left(\frac{10}{100}x + \frac{90}{100}\right)k$ $= 1.36k$ <p>は、上 2 箇所のクッションのばね値を <math>x</math>倍し、残りの 90% (下 2 箇所のクッション 60% + 何らかの部材 30%) は変更しない、という意味である。</p>
-----	-----------	---

#### 問 3-29 について

本問題の主題は、(a) の行列  $[M]$  の具体的な形を問うものである。本問題で取り上げている波動方程式は、棒の縦振動や弦の振動の運動方程式と同じ形であり、行列  $[M]$  の計算は問 3-15、問 3-16 および問 3-17 で問われているものと基本的には同じである。このため、本問題は標準問題集には掲載しない予定であったが、ミスにより掲載されてしまったものである。

上記の理由で、本問題は本標準問題集から削除する。